

母と子どもの深い絆 京都の殉教者



取材協力
レンソ・デ・ルカ神父
(イエズス会)

ゆったりとした流れの中で歴史を刻んでいく京都の鴨川、都の中心を流れるこの川で殉教の血が流されたことを誰が想像できるでしょうか。清らかに、時には朗々と流れていきます。江戸時代初期の日本の三大殉教と言え、長崎、江戸、そして京都。1622年の長崎、1623年の江戸に比べ、京都の殉教は女性や子どもが数多く含まれているのが特徴です。

フランシスコ・ザビエルが京都にたどり着いたのは1550年のこと。その後、トレス神父、ヴィレラ神父、ロレンツォ修道士などが宣教に励み、1576年には都に聖母教会が献堂されるほど、京都のキリシタンは発展します。数多くの人たちが信仰へと導かれますが、1614年には都でキリシタンに対する弾圧が激しくなっています。宣教師たちはマニラやマカオへ追放され、信徒の世話役たちは東北へ流され、下級武士と貧しい信徒たちだけが残ります。彼らは貧しさの中でともに支え合いながらお互いの信仰を深めていきました。1619年、將軍徳川秀忠はキリシタンに対する迫害をますます強化し、63名の信徒たちが牢に入れられ、牢獄は過酷さを極め、8名が牢死、3名が転びます。伏見城に滞在していた秀忠は、いっこうに信仰を捨てない牢内の信徒たちに激怒し、男女、子どもを問わず処刑するように命じます。これは徳

川幕府が新しい体制のもと、本拠地を京都から江戸に移す前に行った見せしめにもなりました。

1619年10月6日、キリシタン52名（男26名、女26名。そのうち子どもは11名）は一条戻橋から鴨川が流れる六条河原まで引き回されました。一条戻橋はかつて日本26聖人が引き回しの刑に処せられた出発地であり、またキリシタン大名であった小西行長が処刑された場所でもありました。都の人々にとっては処刑場ということもあり、いちばん目にしたくない場所でしたが、キリシタンにとっては十字架の苦しみから復活へと向かう栄光の場所であり、殉教者を数多く輩出した祝福された地でもありました。

復活の栄光を信じながら市中を引き回された52名のキリシタンたちは六条河原辺りに到着します。52名の中でも際立った信仰を見せたのは、殉教者たちのリーダー格でもあったヨハネ橋本太兵衛の一家でした。役人たちはこの一家などを処刑すれば、信仰も広がらないだろうと思っていました。

処刑にあたり27本の十字架が鴨川近くに立てられました。南から一番目がヨハネ橋本太兵衛。中ほどの十字架にはヨハネの妻で身重だったテクラと5人の子どもたち。



左・京都の大殉教
中・一条炭橋
右・元和キリシタン殉教地石碑



六条河原



テクラは3歳のルシアを抱いて、両横に12歳のトマスと8歳のフランシスコ。隣の十字架には13歳のカタリナと6歳のペトロ。子どもたちの他には奉公人もいっしょに十字架に縛られ、十字架を囲む薪の輪に火がつけられて殉教しています。

火あぶりとなった彼らは、炎と煙で息が
できなくなり、長時間にわたる苦しみの中
で亡くなっていきます。その当時の資料に
よれば、「テクラの娘カタリナは隣の十字
架から母に向かって、『母上、もう何も見
えません』と叫んだ。テクラは『そんなこ
とを心配しないで、イエスとマリアの名を

京都の殉教者（52人）京都教区

殉教者名	殉教年月日	殉教地	年齢
ヨハネ橋本太兵衛	1619.10.6	京都	
テクラ橋本	〃	〃	
カタリナ橋本	〃	〃	13歳
トマス橋本	〃	〃	12歳
フランシスコ橋本	〃	〃	8歳
ペトロ橋本	〃	〃	6歳
ルシア橋本	〃	〃	3歳

ほか45人

呼びなさい。もうすぐにパライソに着きま
すから』と励ました。やがて式が終わって、
テクラの腕にはまだルシアを固く抱いたま
までした」と。子どもにとっては、何が起
こるかは十分に分からなかったかもしれない
ですが、子どもたちはお母さんといっしょ
だからということで、全てを受け入れてい
ます。

小さい子
どもたちも
いっしょに
殉教してい
くことは、
残酷なこと
だと批判さ
れるかもしれ
ませんが、
母親として
の導き方、
育て方、ま
た子ども自
身の、母親
に対する深
い信頼など
を京都の殉
教者に見る
ことができ
ます。

父親の模範

小倉・大分・熊本の殉教者



取材協力
溝部 脩司教
(高松教区)

親の姿を見て子どもたちの信仰が育まれ、信仰が深まっていきます。小倉・大分・熊本の殉教者たちには、そうした親子の熱い絆に結ばれた信仰があります。

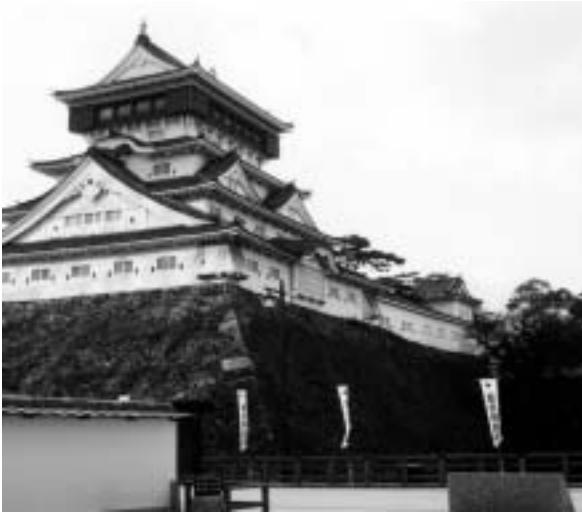
1566年、デイエゴ加賀山隼人はキリシタン大名の高山右近の領地、高槻たかつきに生まれ、10歳の時に洗礼を受けます。安土あづちのセミナリオで学んだ時期もありましたが、武士への道を選びます。1587年、主君の高山右近が領地を剥奪はくたつされ、彼は蒲生氏郷がもつじまごに仕えるようになり、領主とともに松坂、会津若松へと移動します。会津若松は東北宣教の中心地となり、隼人は東北宣教の創始者となります。ところが蒲生氏郷が若くして亡くなり、今度は丹波の城主、細川忠興ただあきに仕えるようになります。熱心なキリシタン大名の黒田如水は中津において、数多くの部下たちを信仰へと導いていきますが、1600年の関ヶ原の戦い後、如水は博多へ移り、細川忠興が中津の城主となります。隼人は中津近郊の郡奉行で、農民たちの生活指導、石高の計算など、住民の生活と密接な仕事に携わっていました。彼の人間的な魅力、信徒としての証が多くの人を改宗へと導きます。

細川忠興は中津城主を息子の細川忠利ただとしに譲り、忠興は小倉に新しい城を構え、隼人も忠興に従っていきました。当時、小倉に

は約3000名の信徒がいて、隼人は彼らの篤い信仰を受けます。隼人には3人の娘がいて、長女がみや。みやは細川家の親戚である小笠原玄也と結婚します。隼人とみやの篤い信仰に導かれ、小笠原玄也も洗礼を受けます。みやと玄也の間には9人の子どもが誕生します。

1614年、徳川家康が禁教令を発令し、主君の細川忠興は家臣の隼人と玄也に信仰を捨てるように命じます。1616年に徳川家康が亡くなり、徳川秀忠が継ぎますが、彼の時代になると禁教令が強化され、1619年10月には京都で52名が殉教。細川忠興も隼人を守ることができなくなり、彼に「信仰を捨てるように」「自分の心の中で信じればいいのではないか」と諭します。しかし、彼は主君に「信仰をごまかすことはできない。私はあなたを主君として尊敬するが、神様のことに關しては絶対に従うことはできない」と答えています。こうして隼人は1619年10月15日、小倉で殉教しました。

家臣の隼人はまだしも、細川家の親戚に当たる小笠原家を簡単に処刑することができませんでした。しかも小笠原玄也の息子たちと細川忠利とは旧知の仲。小笠原玄也の家族は郊外に追放され、農業をしながら貧しく生活していました。細川忠利も最初



左・小倉城
 中・小倉キリシタン殉教碑
 右・熊本キリシタン殉教碑



は彼らを黙認していましたが、1632年の寛永年間に三代将軍家光が実権を握るようになり、キリシタンに対する取り締まりもかなり厳しくなります。その当時、熊本の城主の加藤家は追い出され、細川家がそこに住むようになります。親戚関係の小笠原家も熊本へ移り、一軒の貧しい家であてがわれ、家族と奉公人など、合わせて15人が信仰を公に守って貧しく生活していました。細川忠利は何度も玄也に信仰を捨てるように言います。

小笠原玄也は小倉にいた時、細川忠利に一通の手紙を送っています。その中で「將軍様が何と言おうと、私の主君である忠興様が何と言おうと、私は転びません」と記しています。忠利も彼らを何とか救いたいと思いますが、その時に長崎奉行所に「熊本で小笠原玄也の一家は公然と信仰を守っている」と訴人が出ます。忠利はもう守りきれなくなりまして。こうして一軒の家に牢屋として入れられ、50日間過ごします。

その間に小笠原玄也、みや、その子どもたちが書いた、16通の遺書が残っています。みやの手紙は、「宗旨を変えなさいということであつて牢に入れられました。でも私は宗旨を変えることができませんので、このようになりまして」と書いています。娘の手紙は、「お母さんが熱心だから自分たちをこのよ

うな死に持つていったと、おじさんたちはお母さんに対して怒っていますけれど、そうではありません。むしろ私が殉教したいと思つたからです」と書いています。これらの手紙から殉教をどんなに望んでいたかが分かります。1636年、最期は15人いっしょに首を切られて殉教しました。

ほか奉公人4人

小倉・大分・熊本の殉教者（加賀山一族18人）福岡・大分教区

殉教者名	殉教年月日	殉教地	年齢
ディエゴ加賀山隼人	1619.10.15	小倉	54
バルタザル加賀山半左衛門	"	日出、豊後	
ディエゴ加賀山	"	"	5
小笠原玄也与三郎	1636.1.30	熊本	
マリア小笠原みや	"	"	
小笠原源八	"	"	
小笠原まり	"	"	
小笠原くり	"	"	
小笠原佐左衛門	"	"	
小笠原三右衛門	"	"	
小笠原四郎	"	"	
小笠原五郎	"	"	
小笠原つち	"	"	
小笠原権之介	"	"	